
連合について

坂田火魯志

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
連合について

【Nコード】
N8996H

【作者名】
坂田火魯志

【あらすじ】
拙作『星河の覇皇』に登場する連合、正式名称星間国家連合について書いたものです。参考にした国家や組織についても書いています。

第一章

連合について

拙作『星河の覇皇』に登場するこの連合という国家ですが正式名称は『星間国家連合』といます。これを略して『連合』と呼びます。

1. 経済

経済システムは自由主義的資本主義ですがこの時代は何しろ千年後なので今の資本主義とはかなり違っている部分も多々あります。基本的に中央政府の権限が弱めの地方分権、小さい政府です。最近まで、作品中では本当に最初に連合軍、即ち中央政府の軍が設立された程です。中央警察も長い間存在しませんでした。

2. 連合国家

各国の権限がかなり強い国家です。そうして意味でかなり緩やかな国家連合であります。そうしたこともありまして中央政府は三院制という満足に機能しないどころか邪魔になるのでは、という危惧を抱かせる状態の中央議会を持っています。これは実際に満足に動いておりません。千年間でかなり問題になり議論の対象にもなっていきますが今まで生き残っています。それは各国の意図が強く動いているからです。これに対して中央政府側も対抗していますので中央政府と各国政府はこのことに関しても始終綱引きをしています。とにかく中央政府と各国政府はあらゆることにおいて綱引きを繰り返していました。それが中央集権派と各国分権派、即ち地方分権派の対立になって出ています。これは千年の間解消されていません。まさに連合の持病の一つです。元々連合のモデルは神聖ローマ帝国でありあつた各国の力が強い国家をイメージしています。そこに現代のアメリカ合衆国や幕藩体制も取り入れて書いています。中央集権派は作品中では改革派で分権派は保守派になっています。二大政党であるのも現代のアメリカやイギリスの政治からですが日本の社会党

の様に何でも反対といった愚劣な政党は書きませんでした。また双方共様々な勢力が多層的に支持母体として存在しているのも現代の民主主義政治を見てです。

3. 政党

政党ですがアメリカの共和党、民主党の様に地域主義が強い傾向があります。中央政府中心と各国中心の双方の考えがここでも交差しています。時として保守派が中央政府寄りになったり改革派が各国家寄りになったりします。時代と共にそのスタンスは変わっていきたりします。

4. 三権

三権は分立されていて立法、行政、司法の三つからなるのはこの時代でも同じです。これは近代民主主義国家の三権分立のシステムをそのまま使っています。なお官僚のコントロールですが現代のアメリカにおける軍へのシビリアンコントロールの体制を応用しています。これは政府が官僚をコントロールして命令を下して動かしますが議会はその官僚の意見を聴聞会や委員会で聞きます。そのうえで議会在政府の官僚へのコントロールが妥当かどうかチェックするというものです。当然ながらグンの統制もこのようにされています。これは官僚統制としては非常に有効であるし官僚側の意見も汲み取れると思ったので採用しました。

第二章

5. 官僚

官僚の登用はテストによるメリットシステムが普通ですが中央政府も各国政府も高級官僚については国家元首自らが自分の側近や同じ政党の人間を多く任命するスポイルズシステムもまた取り入れられています。それにより官僚の人事はかなり頻繁に役職が変わります。人事権は政治家にあります。ただし各国政府の場合はメリットシステムとスポイルズシステムどちらがより強いかといいますと国によって違いがあります。例えばアメリカや中国、ロシアといった国家元首の権限が伝統的に強い国ではスポイルズシステムが強いです。逆に日本の様に国家元首なり首相の権限がある程度制限されています。逆にとメリットシステムが強いです。とはいっても連合では比較的政治家の権限が強く官僚はあくまで仕事をするだけの所謂コンピュータであるという認識が強いです。とはいいましても先程述べさせて頂いた通り議会に自分達の政策への考えを述べることはできます。また直接の上司にあたる政治家にも自分達の政策を述べることができます。官僚については誤解が多いので書く時はそれなりに注意して書いています。基本的に軍人も官僚も同じお役人と考えて書いています。武官や文官といった言葉がありますがどちらも基本的には同じ公務員です。そうした視点で官僚の書き方は軍人と重ね合わせている部分が多いです。違うのは武力を使う立場にいるかどうかです。

6. 軍隊の形成

連合内部の軍事ですが中央軍設立までは各国の軍だけでした。それでも千年の平和を維持できたのはやはり法整備があったからです。各国の軍の役目はあくまで自国内の治安維持等に限られておりまして他国との戦闘、紛争は厳しく禁じられていました。各国の軍が他国の領土に何らかの目的、合同訓練や留学や研修といったもの以外

で入る場合には各国政府及び中央議会での承認が必要とされていた。これは連合内部での戦争、即ち内戦を抑止する為でした。これにより連合はその中で内戦が起こることを防いできました。ただし弊害もないわけではありませんである国でかなり大規模な災害や騒乱が起こっても他国は救援の軍を送ることが遅れることがままありました。こうした状況も連合軍設立を望む声になっていったのです。この辺りの事情は連合中央警察と同じです。

7・警察

警察ですがこれもまた各国ごとに分かれていて他国に入ることには容易ではありませんでした。その為犯罪者が国境を越えて別の国で悪事を働くことがままありました。これはテロリストや宇宙海賊といった軍が対処すべき規模の連中についても同じでした。そうした状況を鑑みて遂に中央警察が設立されたのです。これはFBIを参考にしています。FBIは半世紀も長官の座にあったフーバー氏が有名ですが彼は意識していません。なおFBIを参考にしているとすることは勿論FBI設立前のアメリカをモデルにしてこうした状況を書いています。映画で『俺達に明日はない』というものがありますがここに当時のアメリカの状況が見られます。

第三章

8. 権力構造

この作品では連合は特に様々な権力、勢力が複雑に入り組んでおりしかも縦にも横にもそれが及んでいます。これもまた現代の民主主義社会を見てのことです。労働組合もあれば企業もある、マスコミもあればネットもある、学者がいれば批評家もいる、政治家も様々です。官僚も存在しています。彼等がそれぞれの考えで動き集合離散するのも現代社会だと思っていますのでそういうふうに書いています。大衆社会であるということをして意識して流動的な一面も出しています。また階級という意識も嫌悪しているというように書いています。これも今のアメリカやアジア諸国を参考にしています。欧州では今もなお階級が根強く残っていてそれが教育にも大きく影響していると聞いて驚いたことがあります。この状況をそのまま連合とエウロパに当てはめて書いています。

9. 法律

法律ですが中央政府の法と各国政府の法があります。中央政府の法が各国政府の法よりも上位であるとされていますがそれに関する議論は尽きません。これはアメリカ合衆国の法体系からそのようにしました。運転免許等の免許は一国のものを手に入れることができます。すべての国で通用します。福祉や介護もです。各国の移動はパスポートではなく普通に移動できるようになっています。ただしこれは連合内部だけのお話です。こちらはEUを参考にしています。労働力の行き来も自由になっていますので各国はそうしたものの誘致にも必死になっています。

10. 刑罰

刑罰はかなり厳格です。連合は中央政府のものも各国政府のものも法律は非常に厳格です。死刑もまた非常に多く尚且つ刺青を入れたり腕を切り落したり断種手術をしたりということもざらです。

そうした刑罰を麻酔なしで行い刑罰とします。また死刑ですが中世欧州、とりわけ異端審問であったものや中国の処刑をそのまま再現したりしています。普通に身体を切り刻んだりゆっくりと鬺り殺しにするような処刑が多いです。生きたまま猛獣の餌にすることもあります。これは加害者への人権だの少年法だのといったものに対する僕の考えをそのまま出しています。僕はそうしたことは極めて否定的であることを自負しています。間違ってもそうしたことは主張しません。ですからこうした刑罰を連合に取り入れています。それは秩序の維持、犯罪の減少には厳格な法律こそが重要であるという韓非子の考えも取り入れています。刑罰が残酷で尚且つ公開で行われているのは確かにそうした秩序の維持や犯罪の減少を狙っているという理由があります。一罰百戒というわけです。ですがそれだけでなく処刑が見世物、エンターテイメントにもなっているという連合の社会もまたあります。古代からつい最近までにかけて死刑は普通に見世物になっていました。ギロチンもまた然りです。それを不謹慎ではありますが取り入れました。こうした娯楽もあってしかかも認められる場合もあるのでは、と考えたからです。極悪人が惨たらしい最期を迎えて心地よいという人も多いものです。だからこうしたこともあるのです。死刑執行人の社会的地位は高く、また処刑にその為の機械が用意されることもあります。処刑方法は実際にあったものの、鋸引きや猛獣の餌、串刺し、車輪刑、稜遅刑、火炙り、内臓取り出し、八つ裂きといったものは全て実際にあったものです。この時の断末魔の悲鳴や処刑される瞬間の映像も売られていてそれがエウロパ等から批判されているといった描写は今の人権思想による死刑廃止論等を意識して書きました。何度も申し上げますが僕は加害者の人権や少年法には否定的です。なお児童虐待や動物虐待にも重罪が課せられますがその際当然として死刑も有り得ます。連合では動物の生存権は犯罪者のそれよりも遥かに高いです。動物を虐待して死なせた少年は普通に鮫や虎の餌になりその断末魔を映像に撮られます。そうした輩はそもそも生きる資格がないと思います

僕はこうした自分の考えもこの死刑の多さに入れています。

第四章

11. 市民

連合の構成員は市民と表現しています。今の我が国ではこの表現は左翼勢力の都合のいい表現なので個人的には抵抗があるのですが連合という国家を考えますとこれが妥当であると考えこの表現にしました。各国に所属するという場合もやはり市民となります。中央政府の構成員であるとされる場合もやはり市民となります。これに対してマウリアは国民となります。これはマウリアがその中にマハラジャやそういった君主も多く抱えながらもそれでもシステムとして単独国家で構成されている為この呼び方になっています。サハラは各国ごとに臣民だったり国民だったりします。君主制国家にある場合は臣民になり共和制国家にある場合は国民になるという具合です。エウロパでは貴族と平民に分かれます。連合に話を戻しますと何故市民になったかといえますと連合は間違っても共産主義国家ではありません。ですから人民という表現は決して使われません。なお僕は人民という表現は個人的に好きではありません。そして約三百の国家から構成される国家連合という形式の国家です。ですから市民となりました。フランス革命で使われる市民や我が国の左翼が都合よく使っている表現としての市民ではなくアメリカでの市民にその意味が近いです。連合の市民権もアメリカを見て書いています。

12. 諸国家

連合には約三百の国があります。地球にあった頃からの国や宇宙に進出してから独立した国家が多いのですがそれと共に新興国家がありそして所謂古代民族が復活した国家があります。この新興国家にはアッシリアやヒッタイト、フェニキアといった古代メソポタミアの民族の末裔を称する国家やアステカやインカといった中南米の半ば伝説となっている国家が復活したものもあります。なおカルタゴといった国家もありますがどの国家もその民族的な素性は甚だ胡

散臭いものがあるのが現実です。こうした国家を出してみたのは古代民族を出してみるのもいいかな、と思ったこととアメリカにアッシリア人の末裔が約三万人いるという話を聞いてこれは面白い、と思います。

13. 各国の国家元首

各国はどれも民主主義であり資本主義、大衆社会ですが共和制の国家もあれば王制の国家もあります。この辺りはそれぞれです。ただし帝制の国家は日本とエチオピアだけです。各国はこの二国に遠慮して王で留まっています。日本とエチオピアはこの時代で人類社会に存在する二つだけの帝制国家です。日本のそれは言うまでもなく天皇陛下でありエチオピアは皇帝です。エチオピア皇室を復活させたのはあれだけの歴史を持つ皇室は流石にそのまま断絶していたのは惜しいと思います復活させました。僕はエチオピア皇室の後のメンギスツ政権は大嫌いなのでその意味合いも含んでいます。

14. 神々

そしてそれと共に古代の神々も信仰が復活したということを出しています。なお黒人のアッシリア人や白人のインカ人がいたりします。こうしたことを見てもこの古代民族の末裔というものが完全に自称であるのがおわかりになられると思います。これは連合がそれだけ混血しているのだということを書いてもいます。連合は多くの民俗や人種が混血している社会です。国が違えど結婚するということも普通にあります。従ってアジア系でも金髪だったり白人の顔でも肌が黄色かったり青いめの黒人がいたりします。それだけ人種や民族の壁が雑多な社会の中で希薄になってもいます。これを連合の誇りとしてエウロパを白人ばかりだと嘲笑う描写が時折あるのは人種論へのアンチテーゼの意味もあります。実は人種の優性とかそうしたものをしていくと必ずアジア系が最も優秀になるという話を讀んだりアメリカ社会でアジア系が最も知能指数が高いというデータが出たりしていて実際は人種による優劣なぞ意味がないということも意識して連合はあえて混血が非常に多いという社会にしました。

第五章

15. 権力構造

連合の権力組織は中央政府や地方政府だけではありません。労働組合やマスメディア、市民団体、企業、農家、銀行家、投機家、官僚、学生、インターネット、知識人、闇社会、とにかく組織から個人に至るまで様々です。当然ながら大小や強弱がありますがとにかく様々な権力が複雑に錯綜しています。ですから誰が黒幕とか簡単に言えるような社会ではありません。これも近代の高度大衆化社会を見て書いています。三十年位前の様に何か日本の黒幕がいて裏で全てを操っているといった単純な世界ではありません。中央政府大統領も極論すれば一つの権力に過ぎない社会です。

16. 治安上の問題

連合の治安の問題として宇宙海賊やテロリストの存在があります。宇宙海賊は当然ながら治安のいい場所にはあまりいません。出て来れば各国が軍を送ることが普通です。中央軍設立後はかなり徹底的に鎮圧されています。中央軍は元々はそれが目的で設立されているからです。テロリストは己の主張を何があってもどんなことをしても押し通したい連中というのは何処にでもありますのでこの時代でも不安要因として出しています。彼等と市民団体の一部が結託しているということを書いていますがこれは我が国でちらほら聞く噂を元に書いています。あくまで噂であって欲しいお話ですが。そうしたいかがわしい市民団体も一緒に書いております。

17. 問題のある市民団体

市民団体が宇宙海賊やテロリストと結託していてそうしながら正義の仮面を被っていたりマスコミがその市民団体とグルであったりするのはいの我が国のプロ市民やマスメディアが元になっています。ああしたいかがわしいことこの上ない団体もまた民主主義社会の持病の一つだと思いますので書きました。連合ではインターネットが

マスコミより遥かに強いのは今の流れではそうなっていくだろうと考えたからです。そしてマスコミがスポーツ球団をの親会社等にならないのはアメリカに倣っています。僕は今の我が国のマスコミのあり方には非常に思うところがありましてそれでマスコミは将来どうなっていくかといった予測も踏まえて書きました。なお連合では普通の捏造報道などしたら報道資格を剥奪され下手をすれば刑事犯罪者になります。僕から見えていちも夜の十時に庶民の為だの言いながら役者を使って偽りの内部告発を報道した番組関係者は全て報道資格取り消しものだと考えています。マスコミのこうした体質やインターネットを考えネットでのやり取りの描写も多くしています。それでいてマスコミの報道も描写させてもらっています。なおそうした市民団体は正体が公になれば当然のこととして裁判にかけられます。テロリストや宇宙海賊は罪状が重い場合死刑ですが彼等も同じです。テロリストや犯罪者の人権は全くないと言っていい連合の考えがここでも出ています。

18. 宗教

連合の宗教はそれこそ様々です。仏教にしろキリスト教にしろ様々な宗派があります。イスラムはサハラの前とは違いかかなり緩やかです。そして中南米やメソポタミア、ギリシア等の古代の神々を復活させました。これは宇宙の時代には多神教も栄えるのかな、とも考えて書いています。他にはミトラ信仰やゾロアスター教もかなり復活しています。そして宗教人口が連合の実際の人口より遥かに多いのは日本をイメージしています。現代の日本の様な宗教観の方が宗教の問題も起こりにくくかつ様々な宗教が存在できて栄えるのでは、と考えました。一人が複数の宗教を同時に信仰しているケースが多いのも同じです。また過去の英雄の神格化もよく行われています。例えばジョージ・ワシントンや孫文といった建国の父や偉大な宗教家、音楽家、文人、スポーツ選手等が神格化されています。おそらくマイケル・ジャクソンやエルビス・プレスリー、ジョン・レノンも同じだと思われます。ただし千年もの間戦争はなかったの

で軍人が神格化されているケースは少ないです。全体的に信仰も武
張ったものではなく現世利益的傾向も強いです。この辺りが高度な
大衆型資本主義社会である連合らしいです。

第六章

19. 各種産業

産業は実に様々なものがあります。傾向としまして大衆消費型です。ただしエコロジーやリサイクルも発達していてその方面の産業も見事に確立されています。未来はよりそういった産業が栄えるかな、と思いそういうふうに書いています。農業も企業が経営しお百姓さんがサラリーマンの様になっているものもあれば家族でやっているものもあります。ただし全体的にかなり機械化、高度化され工業的な要素も入っていますしレジャーとして観光の元にもなったりします。産業自体も同じでやはりそうしたレジャー的要素として観光の元になっていることも多いです。大企業もあれば中小企業もありますし栄枯盛衰は激しいです。これは現代の資本主義も見えています。ただし多くの開拓地がありますのでそこに進出して再起を計ったり捲土重来という人も多いです。開拓地は連合の重要な要素ですがモデルはやはりアメリカのフロンティアです。あえてインディアンという要素は入れませんでした。これは人は結局のところ満ち足りていれば戦争はかなり減るのではないのか、何も好き好んで血なぞ流さないのでは、と思い他の知的生命体は今のところ出ませんでした。そして複数の国家間で問題が生じた場合代返するものがあれば最悪の衝突は避けられるのでは、とも考え開拓地を用意しました。従って連合では千年の間内戦も対外戦争もなかったのです。そうした人は衣食住にそれにお金があれば戦争もかなりなくなるのでは、と考える開拓地を用意しました。そしてその開拓にも未来の考えで計画的な移民や開発の要素を入れました。ただしそれは各国で行っているというのは連合のその各国の権限の強さを意識して書いたものです。開拓は極めて計画的に行われます。開拓する惑星を政策で決定しそのうえで移民を募集し移住させます。移住に適さない惑星はまず居住できるように作り変えます。連合の技術では金星

や冥王星の様な惑星も居住可能に作り変えることができます。これも連合の四兆の人口を支える一つの要素になっています。

20・大衆社会

連合は階級を否定した大衆社会ですがこれは今の太平洋を意識しています。アメリカ等の市民革命の結果そうした考えは太平洋では消えています。現実として所得や社会的地位による制度化されていないものは当然この連合にもありますが法律として、そして思想として排除されているのは彼等の誇りであるように描写しているのは彼等のエウロパに対するアンチテーゼの一つです。エウロパとの関係は過去の帝国主義時代のことの念頭にありそこから批判しています。そのうえで嘲りや偏見もあります。なお連合内部でも差別はありません。差別のない社会というものはやはり相当人間が進歩しないと達成されません。具体的にはサハラからの難民達はその対象です。彼等は異邦人と思われ時として偏見の目で見られたりします。そうした彼等が義勇軍に入っているのです。

21・難民

難民達ですが彼等はサハラの大戦により生じた難民達です。とりわけエウロパによるサハラ侵攻により住んでいた場所を追われ出されてしまった難民達が多く彼等のうちの幾分かが連合にまで流れ着いて来ています。連合中央政府及び各国は人道的見地から彼等を保護していますが異邦人故に差別されています。異邦人が差別される状況は連合でも同じですがこれは人類社会において常に見られている異邦人への扱いを見て書いています。その為か彼等は彼等で固まって暮らすことが多いです。義勇軍という組織にしろ名前はいいですがその実態は正規軍の剣であり盾であるという一面が強いのです。この組織はフランスの外人数隊を強く意識して書いています。真つ先に火事場に飛び込む精鋭部隊というアメリカ海兵隊ですが彼等より強くまた酷使されています。サハラの間人は実戦を知っているとただでなくその訓練もかなり厳しく、また常に最前線に立たされています。これもまた彼等が差別されている異邦人故の扱いです。

八条義統は特にそうしたふうには扱いませんが軍全体、連合全体として彼等はそうした扱いを受ける立場にあります。

第七章

22. 文化

連合の文化に関しては江戸時代の日本や宋代の中国、第二次世界大戦後のアメリカ文化、それに現在の東南アジアや中南米の文化をイメージしています。つまり大衆文化でしてこれが連合の最大の特徴です。とにかく連合という世界は大衆社会です。いい意味でも悪い意味でもそうできていい意味で言えば活気に満ちていますし悪い意味で言えば猥雑です。エウロパが貴族なのに対して連合は大衆です。もう数や勢い、多様性や派手さ、そうしたもので押し切るような一面があります。とにかく多くのものを食べ様々なジャンルの音楽が世界に満ちていて娯楽もごまんとあります。文学や芸術の種類も様々です。音楽で言えばジャズだけでなくクラシックもあります。これもアメリカ文化の影響ですがブロードウェイの様な劇場もあればメトロポリタン歌劇場の様なオペラハウスもあります。とにかく様々な種類の文化が同時に存在して栄えています。黒人のオペラ歌手もいれば白人の京劇の役者がいたりもします。小説や漫画、アニメ、ゲームもかなりのジャンルがありますしドラマも盛んです。バラエティ番組を見るともう漫才があったりコメディイがあります。落語や浄瑠璃、そういった昔の文化も残っています。意外と古いものが残っています。文明的にはアメリカ、中南米、イスラム、アフリカ、ロシア、東南アジア、中国、オセアニア、そして日本と様々な文明が存在しその全てがモザイク状に入り混じっています。これは文化のあらゆるジャンルも同じです。とにかく全てが複雑に交錯しています。料理についても同じで様々な国の料理が存在します。各国の国の料理が各国で食べられると言ってもいいですがやはり母国の料理がどの国でも最もよく食べられます。ですから刺身やそういった生ものを食べる日本人に他の国の人達が驚く描写が多いです。料理もまたr作品中では重要な文化の一旦として書いています。連

合という多彩な社会を映し出している鏡の一つとして見られても面白いと思います。

23・教育

教育ですが我が国の日教組教育を反面教師として書いています。僕は日教組は大嫌いです。その為その教育の正反对を書いています。その為暴力教師を批判的に書いていたりします。特徴としましては歴史教育において中央政府、それに各国の歴史を誇らしげに書く一方でエウロパは徹底的にこきおろしています。これは連合という多元化社会をまとめる為に共通の敵が必要でありその敵が他でもない宿敵エウロパだからです。エウロパは連合にとってはまさに不倶戴天の敵ですのでこういうような扱いになります。また彼等は彼等で連合を敵として認識しそうした教育を行っています。言うならばお互い様です。何につけてもそれにより連合は共通の敵を持っています。そちらに目が向いているのは事実です。こうした共通の敵を作って国家をまとめる、その為に教育を使うというのは近代国家、とりわけアメリカに見られることですがそれを踏襲しています。

24・教科書

教科書は各国ごとです。ただし中央政府である程度の指導要領が定められていてそれに倣う形になっています。その各国の中でもそれぞれの企業が教科書を作成しています。これは今の日本の教育と同じです。ただし極端に歪な教科書、今の我が国の歴史教科書の多くの様なものはありません。指導要領に触れるからです。ですからそうした事態はありません。ただしやはりエウロパは批判され続けています。それ以外は至って平穏な内容となっています。連合千年の歴史はまず戦争の話が出ません。千年の平和はやはり大きいです。

第八章

25. 教師

教師はかなり厳しくチェックされています。暴力教師や問題のある教師はすぐに責任を問われ処罰されます。今の我が国の教師の一部を見て書いたのは言うまでもありません。それでも暴力教師や人格異常の教師は尽きません。教師が公務員であった場合組合に参加することは許されません。なおこれは他の職種の公務員も同じです。やはり組合に入るとは許されません。これは今の我が国の公務員へのあり方をさらに厳しくして書いています。やはり僕個人の日報組への考えがかなり強く影響しています。

26. 教育システム

高校までは義務教育と定められています。学校は公立も私立も国立もあります。国立は各国政府になります。中央政府の大学等は研究施設扱いになっています。そこから大学となります。大学院も当然あります。文系も理系もそれぞれかなり発達していますが実用的な学問がかなり高度化しています。これはローマ文化の実用性からヒントを得ました。法律や科学技術、農学、といった分野がかなり発達していてそれこそ他の勢力の追隨を許しません。各種専門学校もかなりの種類があり栄えています。教育はそれぞれの個性を伸ばす傾向が強いです。何か一芸に秀でている個性的な人物が多いのが連合の特徴にもなっています。

27. 言語

言語は銀河語が公用語であり必ず教えられています。まず銀河語が教えられます。しかし各国ではそれぞれの言葉を教え続けています。連合では誰もが銀河語を話せますが同時にそれぞれの国の言葉を話せるようになっていきます。銀河語は別にエスペラント語がモデルではありません。話し手の多い英語や中国語、スペイン語等がミックスされて形成された言語です。なお各国の言葉には古代の言語

を半ば無理やりに復活させたものもあります。この辺りは言語学的にはかなり眉唾であったりします。

28・宗教

宗教と同じですが神話は復活しています。千年の間に創作が入れられていたりあらたな話が発見されています。従ってメソポタミアや南洋、アボリジニー、とりわけ中南米の神話はかなりの発展や進展が見られています。その中で悪神だった存在も善神に戻っていたりなっていたりしているケースもあります。エジプト神話のセト等はどうやら当初は善神だったようですがオシリス、ホルス信仰から悪神になっています。これも訂正され善神となって信仰を受けています。他にはアメリカ等にケルトのルーツを持つ人が多い為ケルトの神々も信仰されその神話もまた信じられています。こうした神々は連合軍の象徴とも言えるティアマト級巨大戦艦の名前にもなっています。なおこれは余談ですが悪とされる存在が善の存在となっている代表的な例はキリスト教のサタン達を信仰している宗教です。これはミルトンの失樂園を読んでいるとどうしてもサタン達が悪ではなくもう一つの善ではないのか、と思いついた反逆者達を善であるとして信仰しているものです。失樂園のこの解釈は僕独自のものでかなり特殊かも知れませんがここから出ています。

第九章

29・各国の関係

連合の中にある国々ですが大国と小国があります。よくあるお話ですが大国の横暴が目立ちます。これは現代と同じです。過去もそうでしたしこの時代でも結局大国は横暴なものです。しかしそうした大国が悪であり加害者であり小国は善であり被害者であるかというところではありません。小国は小国で合従連衡して大国に対しています。どの国家も自国の利益の為に動きその中の善が無数に存在しています。最近のTBSに移ったガンダムのように小国を弱者と書くような書き方は絶対にしないようにしています。現代のアジア太平洋世界でのアメリカや中国と東南アジア諸国の関係を見てかなり書いています。日本も日本で抜け目ない一面を書いています。やはり母国ですので日本はかなりよく書いていますがそれでも善と悪の二面があってそれは国益の為だというように書いています。また政治の中で賄賂や謀略が出て来て肯定的に書いていますが僕はそうしたことは政治には常だと思っていてカードとして当然ではないか、と思い書いています。完全にクリーンがいいかというところでもないのが人間社会ではないのか、とも考えています。こういったものも書いています。これは連合に限らないですが連合ではとりわけこうした駆け引きが多い社会にしています。ただ米中露の国家としての性格はあれだけ強烈な個性の国々がそう簡単に変わるかな、と思ったのであした性格です。日本は結構変えています。

30・中央政府と各国の関係

連合で独特の問題としまして中央政府と各国の関係がありますがこれが何かにつけて問題となります。まず自分達を各国に所属する人間であるとしてそのうえで連合市民であるとするのかそれとは正反対に連合市民であるとしてそれから各国に所属するとするのか、まさに卵が先か鶏が先かといった議論が果てしなく行われておりま

だ結論は出ていません。これは国旗や国家にも及び絶えずどちらが先かで議論になっています。些細なことですが極めて重要な問題になっています。まず各国なのかそれとも中央政府なのか。それが問題になっています。これはイタリアの地域主義を参考にして書いています。イタリアは今でも各地方や地域への所属意識の方が強いそうです。

31. 外交

連合の外との関係ですが中央政府は主にマウリア、サハラ諸国との関係です。ですが各国も各国で通商やビジネス限定ですがマウリアやサハラ諸国と外交をしています。それでマウリアと経済摩擦が起こったりするケースもあります。中央政府は軍事やそういった分野での交渉を行うこともあります。この辺りが中央政府と各国の大きな違いになっています。

32. 惑星の生態系

生態系は惑星ごとによって違いますが誰も住めない惑星を居住可能にするにあたってはそこに多くの動物や植物を移してそのうえで繁殖させています。その為同じ様な生態系の惑星も多いです。惑星によっては既に地球で滅亡した生き物がいたり地球にはいなかった生物や植物が生息していたり繁殖していたりします。とりわけ恐竜やペガサスといった存在が有名です。また農作物にも影響があり青い林檎や紫のカボチャといったものもあります。絶滅した動物やそういった植物を出したのは宇宙の無限の可能性と多様性を書きたかったのですがそれと共に地球で自らの過ちで会えなくなった動物達と人間の再会もあっていいのでは、とも思い書いたものです。個人的にはステラーカイギュウやオオウミガラス、恐竜達を出したことが広がりを持たせている一端になっているかな、と考えています。

第十章

33. 環境と開拓

その星の生態系は惑星開発においては非常に重要なものになっています。それを出来るだけ破壊しないように配慮しながらの開拓、移住が前提になっています。この時代は環境保護の思想やエコロジ―の技術がかなり発展していますがそれでもです。そうした配慮をしなければ開拓はできない時代になっています。それこそ各分野から叩かれるからです。現代で政府や企業が政策や経営にエコロジーを念頭に入れるようになっていたのと同じです。そうした配慮があつてこそその開拓、開発、移住になっています。ただし恐竜や巨大哺乳類、大型の昆虫、人も襲いかねない巨大植物と言った生物や植物がいる星系での開拓や開発はかなり危険なのでロボットを使って多少荒っぽく行う場合もあります。恐竜達に襲われては流石に人間は元も子もありません。海もまた同じで開発にかなり注意を払って行っています。何にしても種や環境の保全には気を使っているのが連合です。

34. 動物愛護

動物や植物ですがその保護はペットにまで及んでいます。ペットを捨てると法律、しかも刑事で問われます。これは中央政府及び各国の政府の法律で定められています。虐待についてもです。余談ですが当然人間の子供や老人への虐待も厳罰が定められています。止むを得なく飼えなくなった動物はそうした動物を集めてそのうえで飼う惑星や開発された衛星がありましてそこで各国政府が面倒を見ています。時には私人が特別な資格を得てそのうえで経営している場合もあります。これは宗教団体が行っている場合も多いです。こうした私の施設は何等かの事情で経営を放棄せざるを得ない場合は必ず引き継いでくれる人を見つけなければいけません。どうしてもそれが無理な場合は国家が一時引き受けます。これは孤児院も同じ

です。その様にして動物や子供を丁重に護っています。こうした配慮は連合という社会の余裕から来るものですがかなり充実したものであります。

35・介護及び福祉

連合の介護や福祉はかなり充実しています。それは戦乱に覆われそれへの配慮があまり行き届いていとは言えないサハラ各国と比べると隔絶たるものがあります。ただし揺り籠から墓場までといったような社会主義を思わせるものではなくかなり自由度の高いものになっています。この辺りはスウェーデン式のそうした福祉政策は問題があるのでは、と思ひそのようにしました。左翼の人達、とりわけテレビに出て来るいつも喚き散らしている茸みtainな髪型の女の人は何かにつけスウェーデンを引き合いに出しますがスウェーデンもまた決して地上の楽園ではないのであえてあした形にはしていません。なおスウェーデンはかなり軍備が凄い国家でもあります。あの人がそうしたことを知っているかどうか甚だ疑問であります。少なくともあの人の主張は全て反面教師として連合を書くにあたって利用させてもらっています。

第十一章

36. 連合軍

軍はあまり地位は高くありません。完全志願制で常に人員の確保に困っています。訓練はかなり緩やかで福祉厚生はかなり充実しています。また給料も高いです。これは全て人気取りと人員確保の為です。様々な施設も充実していて基地内や艦内の居住環境もかなりいいです。この辺りはアメリカ軍を参考にしました。軍規軍律はかなり厳しいです。とにかくこれを第一絶対としています。訓練は緩やかであってもです。その為個々の質はお世辞には高いとは言えませんが規律だけは完璧に近い軍隊になっています。軍服はスーツタイプですがこれは下士官及び将校のもので兵士はセーラー服です。二年で下士官になれる下士官候補生やパイロット候補生、少年学校の生徒は七つボタンの詰襟です。下士官の服は黒ですが将校になると階級を示す金モールが袖に付きますし制帽の顎止めも金色になります。夏服は略服と礼装があります。どちらも白です。正装は下士官及び将校は詰襟です。礼装は滅多に着ません。また将校の略装及び礼装は肩章に階級章が付きます。敬礼は海軍式で狭い場所でも行えるように腕を小さくしての敬礼となっています。制服を含めて全体的に海上自衛隊をモデルにしています。ただし兵器調達や運用に当たっての法整備はアメリカ式です。自衛隊のそれはかなり問題がありいざという時に動けないと判断しそこは採用しませんでした。食事は同じ食堂で階級に関係なく食べます。ここは海上自衛隊とは違います。食べるものは誰もが同じものです。そこで各国の料理を出して連合内の文化交流を図る意図もあります。階級は下士官が異様に多いですがこれもアメリカ軍を参考にしました。上級大将がないのもです。連合で上級大将がないのはそれがエウロパ式の階級なので各国が嫌って採用しなかったからです。なお中央軍設立までは各国はそれぞれの軍服を着ていました。階級は各国共同でした。

階級の形式はそのまま中央軍に受け継がれています。これは国軍に残っています。詰襟タイプとスーツタイプがありました。王制や帝制といった君主制国家は詰襟で共和制国家がスーツになっていました。詰襟タイプは旧帝国海軍のそれが頭の中になりました。作品中で書きましたが議論の末中央軍の軍服はスーツになりました。この辺りに連合内での微妙な軋轢もあつたりします。

37・将官の任命

連合軍の特徴として元帥が少ないです。三十人しかいません。ただし大将が多くなっています。将官は大将までは国防長官が任命しますが元帥からは中央議会での承認が必要となります。これもアメリカに倣っています。そのうえで中央政府大統領が任命するという形式になっています。元帥の権限と地位は高くその為こうした厳格な任命形式となっております。その数も少ないです。なおこれは公ではそうではないということになっていますが元帥になれるのは大國出身者だけです。小國出身ですとまず大将止まりです。それで大将が多いという一面もあります。艦隊司令が中将であり十個艦隊からなる軍団司令は大将、その十個軍団からなる軍司令もまた大将です。この辺りは大将といえどランクがあります。自衛隊で一佐の中でランクが三つあるのを参考にしています。三個、人口増加に伴う中央軍の拡大以後は軍からなる軍集団司令は元帥となっています。このことから元帥という階級の重大さを表わしているつもりです。

第十二章

38. 指揮の標準

司令の階級について言及しましたが軍は艦隊が基本単位です。これは現代の軍の師団を基本単位とするのを踏襲しています。十個分艦隊で一個艦隊です。一個分艦隊は千隻程度で司令官は少将です。百隻だと司令官は准将、十隻は大佐です。艦長は普通は中佐になることになっています。ただし艦種によってはそうではありません。小さな艦艇では少佐が艦長である場合があります。これは今の海軍の形式よりも陸軍のものを参考にしました。

39. 軍の教育

士官の任命や教育は各国にそれぞれある複数の士官学校から入る場合と一般大学から入る場合が主流です。大学出身者は確実に将校になります。今の自衛隊では崩れていますが連合は志願者の問題もあってこうなっています。一般大学には軍事教育課程も存在しています。勿論他にも士官になるコースはあります。パイロットは全員士官でこれもアメリカ軍や自衛隊に倣っていますがパイロットになれば士官になります。そして七つボタン出身者、つまり下士官候補生や少年学校生徒は下士官になって四年を経て部内試験を受けて士官になれます。これは少し前までの自衛隊の曹候補学生のシステムを参考にしています。即ち下士官候補生や少年学校は士官学校出身者や一般大学出身者、とりわけ士官学校出身者が高級士官になるのに対して彼等は中堅将校になることを意識して設けられたコースであることをそのまま現わしています。とはいってもそのまま下士官になる人達も多いです。一般から兵隊で入っても順調に階級を進めていって士官になれます。なお一般ですとか士官候補生や少年学校出身者に比べて下士官での昇進も遅いです。自衛隊を参考にして書いていますが自衛隊の入り口社会であるという一面もここで書いています。

40. 軍の編成や交流

軍は第一次世界大戦の頃のイタリア軍の様に各国の出身者を集めてそのうえで軍を編成する方式ではなく第二次世界大戦の頃のイタリア軍の様にそうしたことを考えずあえて分散させて編成しています。また食事はあえて各国の様々な食事を出してそのうえで各国の文化の交流をさせているという一面もあります。そうした軍を通じての文化交流も行っています。また市民達との交流をかなり積極的にに行いこれがメインの仕事の一つにもなっています。とにかく市民に理解してもらおう軍を目指しています。この辺りは自衛隊をかなり念頭に置いて書きました。本当に自衛隊をモデルにすることが多いです。

とりあえずこうした調子です。連合という国家はこうした国家だと思って下さい。

連合について

完

2009・9・3

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8996h/>

連合について

2010年10月12日18時48分発行